

山形県庄内総合支庁

小林橋補修で舗装を切削 フルコントルスディオ25を採用



山形県庄内総合支庁建設部は、27年度橋梁長寿命化対策事業として酒田市中心地内の小林橋の補修工事を進めている。同橋は一般県道田沢下新田線の小林川に架橋する橋長23.81m、幅員7.3mの単純合成鋼桁の橋梁。

舗装打ち替え、橋面防水工(シート系)のほか、伸縮装置や支承補修、高欄補修、また塗替え塗装工も実施する。元請施工は渡部興業。同橋は昭和45年架橋、コンクリート舗装がさ

れ、防水工のためには約5センチほど旧舗装を取り除くことが必要(約144平方メートル)。道路計画課担当者は「ブレーカーなどによる施工では、床版へのひび割れが懸念されるため切削することにした。同橋は合成床版で、床版厚がコストも高くなる。油圧

薄く特に注意が必要」と語り、施工性や経済性を考慮した上で、小型表面切削アタッチメントを用いた油圧ショベル(フルコントルスディオ25)を用いる事とした。

「全面通行止めができないため、片側1車線ずつ施工しなければならぬ。短い橋長で切削する面積が小さいため、通常

つなぐ

技術の工夫次第で

(川)

(28・11)

コストも高くなる。油圧フルコントルスディオ25)を用いる事とした。

「全面通行止めができないため、片側1車線ずつ施工しなければならぬ。短い橋長で切削する面積が小さいため、通常

コストも高くなる。油圧フルコントルスディオ25)を用いる事とした。